

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2973200211		
法人名	株式会社 メディカル・ケア・コンシェルジュ		
事業所名	グループホーム ここから王寺町 そよかぜ		
所在地	奈良県北葛城郡王寺町本町4丁目4番16号		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	平成27年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kagokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2973200211-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kagokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2973200211-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年7月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所10年目を迎え、入居様も症状の進行、全身の低下があり、当初より外出の機会も少なくなってきた中で、家庭的な雰囲気や大事にし、一人一人に合わせた計画と尊厳や理念を常に考えたサービスの提供を心がけている。健康管理も重視し、食事はいつも新鮮なものを使用し、当ホームにて調理している。なるべく、室内に閉じこもることの無いように、外出や季節感も味わっていただいている。また入居されても、家族との絆を保たれるよう状況に合わせて、フィールドバックをしている。職員は「自分の親も入所させたい」と思われるような質の高い介護を目標に日々の業務に自己研鑽している。(回想法の取り入れ) H24年11月より～

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは「気配り 目配り 心配り」と理念に掲げ、利用者の笑顔を引き出せるよう職員も笑顔で日々のケアを行っています。開設時より地域と繋がりがりながら暮らしていけるよう積極的に地域に目を向け、毎年秋には新米を炊き秋刀魚を焼いて地域の方へ振る舞う交流を継続し、今では近隣の方の楽しみごとになったり、地域の方の好意から芋掘りに誘われるなどホームへの理解も深まり着実に地域に溶け込んだ交流が広がっています。ケアにおいては食事作りを一緒にする機会を大切に、利用者のできることを引き出し自信に繋がったり、利用者の好きなお好み焼きやたこ焼き等を一緒に焼きながら会話が弾み、食事を楽しんでもらっています。家庭的な雰囲気のもと利用者へ寄り添い懐かしい話等を聞きながら利用者が笑顔で暮らし続けられるよう職員が一丸となって支援をしています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後の経営理念の唱和で、意識を向上させ実践上、習得した経験をより良い方向につなげるよう努め、目配り気配りを徹底させている。	開設時に法人の理念を基に職員間で話し合いホーム独自の理念を掲げています。利用者の笑顔が見られるよう居心地のよい空間を作り、職員も笑顔を見ながら日々のケアを行っています。新人職員にも理念に込めた思いを伝え、理念に沿ったケアが実践できているか折に触れ振り返りや確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域的に難しいところはあるが、少しずつ進展はしている。周りの住民とのコミュニケーションがとれている。 (例)・イチゴの苗を頂く。その際「甘いから皆に食べてもらってやー」	地域の情報は広報誌やボランティアの方から得られ敬老会に参加したり、散歩時の挨拶や地域の方の好意から芋掘りが体験できたり、苺の苗をもらう等近所付き合いが広がっています。9月に行う恒例のバーベキューでは参加した地域の方や近隣の方に新米のご飯と秋刀魚を焼いて提供し住民の方と楽しみ交流が深まっています。歌や踊りのボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門性を生かして地域貢献が出来る体制である。 介護相談や他事業所からの見学も増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーが増え、ホームでの現状を各方面へ伝えて頂けるようになってきた。 また、行政への質問も増えてきている。	会議は町職員や民生委員、家族等の参加を得て年6回開催し、活動や現状、職員の異動等の報告を行い意見交換しています。防災や介護保険の改正等について参加者から情報が得られ、ホームの現状を知ってもらえる機会となっています。必要な内容は面会時や電話、書面で家族に伝えるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場への連絡はスムーズに取れている。 お互いの協力関係は築かれている。	町職員は運営推進会議への出席もあり実情を知ってもらっています。制度の事や分からない事は窓口へ出向き相談しており良好な関係を築いています。研修案内が届いた際には職員に伝え参加するよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、職員は理解していると思う。やむえず行わなければならない状態になったときは、ほかに安全面に代わるものがないか、考えていくこともある。玄関の施錠についてはホーム周りは交通量も多く、柵のない線路もある為、施錠はやむえず行っている。家族様にも、その旨説明をしている。但し居室等の施錠は行っていない。	身体拘束について外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員に周知しています。具体的な事例を上げ勉強会でも学ぶ機会があり、言葉による行動制止についても意識し、職員間で注意し合うように伝えていきます。玄関の施錠については入居時に家族に説明を行っており、出かけた方には職員が一緒に付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も、職員は研修会で学んでおり、日々の業務においても常に注意している。		

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使われていた方もあり、職員は学ぶ機会があった。ホーム側からも家族様に説明をし紹介もした、		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、1項ごとに説明し、疑問等の質問に応じ、理解・納得・安心を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長・職員はなるべく利用者の中に入り、意見や不満等の聞き出しに努力している。また家族との信頼関係も、大事に心がけている。外部へは相談員の活用をしている。	利用者の意見や要望は関わりの中で聞き、家族の意見は面会時に聞いたり、面会の少ない家族には電話で状況を伝えて聞いている。意見を受けて運動の機会を増やしたり、個別に出された意見はその都度対応し改善に繋げ、面会時など、対応策を個々に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法や入居者の受け入れ、入居中の問題等は、常に意見を聞いている。職員への意見も多く出されつつあるが、こちらからの問いかけも行っている。	概ね月1回の会議や随時のミーティング、個別面談等の他、法人が行う個人面談でも意見や提案を聞いています。衛生面や環境整備等職員の得意分野を活かして係りを決め任せ、出された意見や提案は反映できるよう取り組んでいます。また内容によっては法人に挙げ話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況によって個人面談を行い、話を聞くように心掛けている。資格習得や研修会・勉強会への取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談により、個々にあった研修の受講を勧めている。人材育成や研修参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協定している7市町村への訪問はよく行い、情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	CMや家族様からの情報を詳しく受け、個々の思いを把握し、声掛けをしながら信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず現状報告し、気づかれた事や相談があれば対応している。 なるべく家族様と話をするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フォーマル・インフォーマルの活用と他事業所やネットワークを利用し、希望にあったサービス提供をできるように努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の都合に合わせるのではなく、傾聴・受容をし、計画にそった内容で支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携はすぐに行えている。本人や家族と相談し、方向性を定めている。家族との外出や食事もできる限り進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方々の面会があり馴染みの人々の面会も多くなってきている。症状も進んできており、記憶も途絶えがちであるが、なるべく外食やドライブに行く様勧めている。	友人や知人の来訪時にはゆっくり過ごしてもらえよう居室やリビングを選んでもらい、時には来訪者と外出する方もいます。家族と一緒に買い物や外食の他、友人宅を訪問したり、ヘルパーが付き添って馴染みの美容院へ行く方もいます。また家族と墓参りや法事に出かける方もおり、連絡調整や準備などの支援を行い、馴染みの関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体的に体調の低下や認知度が進んできており、孤立や交わりたくない様子も見られる。職員は初期対応や見守りをするよう、常に気を付けている。		

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も介護相談が必要な方々や、他のサービス利用についての紹介等を行い、支援や関係づくりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行や体力低下により、思いや意思決定が難しくなっている。できるかぎり本人本位になるよう検討し寄りそう介護に努めている。	入居時は入院先の病院や自宅での面談を行い、家族から聞いた意向や心身の状況、食事について等の情報収集した内容を職員に伝え共有しています。入居後は利用者に関わる中で変化のあったことや職員が気づいたことを支援経過やホーム日誌に記載したり、困難な時は表情や言動などの様子から思いを汲み取れるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昨年より回想法を取り入れ、これまでの暮らしや生活歴を思い出して頂く方法を取り入れている。これにより新しく発見することも多々あり、サービスへ反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訴えもできない事が度々あり、現状把握や経過等の様子観察が必要である。(リズムパターン表の活用)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居の方々には、担当職員が決めて日常を把握できるよう情報を集め、その都度、家族への連絡・報告を行っている。現状にあった介護計画の変更や課題を明確に出来る様努めている。	初回はアセスメントや利用者、家族の意向を基に介護計画を作成しています。計画を見直す際には面会時などに聞いた家族の意向や職員の意見聞き、3ヶ月から6ヶ月で更新しています。サービス担当者会議には利用者が参加することもあり、必要に応じて往診医や歯科医師の意見を聞いて計画に反映させています。モニタリングと再アセスメントの記録が不十分です。	モニタリングと再アセスメントの記録を残すことで利用者がより良く暮らすための課題やケアのあり方に繋がってはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル・日誌・職員間の連絡ノートで職員間の情報を共有している。状態の変化と共に介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・回想法の取り入れ ・訪問美容、訪問歯科医等、必要に応じてニーズ解消は行っている。 ・必要に応じ、人家族の要望は取り入れている。		

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が難しくなっている方も多く、室内環境を変えたり、庭先で楽しんで頂けるように心がけている。外出のできる方はその都度出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信に行くことが出来ない方には、2週間に1回往診をして頂いている。主治医には急変時や常時相談・支持を頂く体制にある。(薬剤師さんと同じく)	入居時にかかりつけ医を継続できることや協力医の利便性について説明し、主治医を決めてもらっています。かかりつけ医への受診は家族が対応し情報交換を行っています。2週間に1回の往診日の他に、体調に変化のある方や家族の希望で診てもらい立ち会う家族もいます。また往診には薬剤師も同行し薬の変更や理由の説明もあり、協力医は24時間何時でも往診に来てもらえる体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、主治医による指示や連絡はスムーズに行える体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医からの紹介状や協力病院連携は出来ており、情報交換や相談はスムーズに行っている。救急車搬送の時は、ホーム長同行により経過報告や情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について主治医、家族様、本人、ホーム長等で話し合いを持ち、本人、家族様の希望に添えるよう主治医等との連携体制を密にしている。	入居時に終末期の対応について説明しています。重度化した時には家族も往診に立ち会い、医師が家族に状況の説明と対応出来る事や出来ない事を伝え意向を確認しています。随時医師の往診を受けることができ、家族の協力の下看取りの支援をした事例があります。入職時には看取りの支援の方針を伝え、内部研修を行い職員は学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応は経験を積んでおり、適切な対応が出来る様になっている。 AEDも1回使用。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練のシュミレーションどりに昼間の避難訓練を職員・入居者様と行うことができた。回数を増やしていくよう努め、夜間の避難訓練も行うようにする。	年1回、昼間を想定した自主訓練を利用者と共に行っています。出火場所を想定し、避難場所や避難誘導の方法を確認しています。運営推進会議では訓練の報告を行い参加者からもアドバイスや意見が出されています。備品の準備や食料、水の備蓄も1週間程度備えています。	消防署や地域の協力が得られるよう働きかけたり、訓練の回数や職員の少ない夜間想定での避難訓練を検討されてはいかでしょうか。

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人をしっかり把握しており、その人に合った対応をしている。回想法を利用して、誇りなども見出している。イニシャルでの記入など工夫してプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	内部研修で接遇マナーやプライバシーについて学び、不適切な対応時には注意すると共に会議の中でも話し合い周知しています。排泄支援時にはドアを閉め羞恥心に配慮したり、希望のある方は同姓介助で支援するように努めています。丁寧な言葉遣いや敬語を基本とし、馴れ合いにならないように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	段々と自己決定が出来なくなりつつある。無関心や、考えることが面倒な様子が見受けられる。なるべく傾聴に重きを置き、声掛けや希望に添えるよう支援していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入床や起床時間は決めておらず、それぞれによって自由になされている。日中は自室で趣味を生かされる人もいる。またお茶時や食事時は各担当で手伝いもして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用する洋服は、本人の決定を促している。化粧品はなくなれば一緒に買い物にも行く。理容・美容については訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物は、必ず取り入れた献立にしている。献立の希望を聞き、偏らないように心がけている。同じ物が食べられるように食事形態にも注意している。また職員と一緒に出来る部分は手伝って頂いている。	職員が関わりの中で聞いた利用者の食べたい物を取り入れながら食材を発注し、足りない物は利用者と一緒に買い物に行き、盛り付けや洗い物、配膳等出来る事に携わってもらっています。敬老会やお節料理、土用の鰻、秋の秋刀魚、梅干やらっきよを漬ける等季節毎の料理を大切にしたり、誕生日には食べたい物を聞いて提供しています。職員も一緒に食卓に着き、同じ物や持参した弁当を食べながら楽しい団欒の場となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターン表に各個人毎に記入し水分量・食事量・排泄量の把握が出来るようにしている。栄養状態や水分摂取の悪いときは主治医と相談しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週月曜日に、訪問歯科医や歯科衛生士により口腔ケアを行っている。見守りや自分でできない方については職員が歯ブラシや口腔ケアを行っている。		

グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズム表を活用している。尿意のない人には随時、声掛けや誘導を行っている。昼間は失禁を減らすことを目標とし、尿取パットやリハビリパンツを利用して頂いている。	座位が保てる間はトイレでの排泄を基本とし、個々の排泄記録を参考に排泄の習慣や間隔、仕草等を見ながら失敗に繋がらないよう声かけや誘導を行っています。入居後には紙パンツから布の下着とパッドへ変更できた方やその方に合った排泄用品の検討を行いながら排泄の自立へ向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量・食事チェックを行う。排便が困難な方は、かかりつけ医の指示により便秘薬を処方してもらっている。また浣腸行うときもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は日中を主に行っているが、希望によっては変更や毎日の入浴も出来る。時には入浴剤を入れて楽しんで頂いている。重度の方に対しては2人対応で行っている。	入浴は週2～3回を目途に午後から夕食までの間に入ってもらえるよう支援し、毎日入る方もいます。声をかけ入れる方から入ってもらい、利用者の体調に考慮し清拭の対応もしています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を用いて入浴を楽しんでもらったり、こだわりのシャンプーの使用や衣類の準備など一緒にしています。拒否の方には声かけを工夫し無理強いせず臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、外気浴や散歩やドライブに行ける人は適宜行っている。夜間は早く入床される人や中間覚醒されている方もおり夜間の対応が難しくなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴を確認し、処方箋を確認する。副作用に注意し主治医へ報告指示を受ける。また服薬の変更は職員連絡ノートにて職員全員把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	回想法により、生活歴を把握し、生活支援に生かしている。ほぼ毎日の役割は決まっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前のように散歩は難しくなりつつあるが、気候の良い日などには散歩やドライブを行い。昼食の夕食や買い物等は、本人や家族の希望を聞いて、なるべく出かけられるようにしている。	気候の良い日は近隣を散歩したり、外出できない時は車椅子の方も一緒に中庭で気分転換を図るなど戸外で過ごせるように支援しています。外出行事として季節の花や紅葉などを見に行ったり、地域の敬老会や芋堀りに出かけています。家族と一緒に夕食やカラオケに行ったり、自宅への外泊や外出をする方もいます。	



グループホームここから王寺町(そよかぜ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていることが、安心感へとつながる人は所持されている。買い物に行った時の支払いは、事前に渡し支払いをして頂くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、友人からの電話は、取り次いでいる。自らの電話も、必要に応じて自由である。手紙の返事等は職員がポストインしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾ったり、また雛飾りをしたりと家庭感を出すようにしている。壁面も季節感を味わえるように工夫をしている。 ・湿度 温度管理をしていく。	庭での野菜作りや梅干作り等の他にリビングに季節感のある作品を飾り、四季を感じてもらえるよう工夫をしています。会話を楽しめるよう行事の写真を廊下に掲示し、庭の愛犬を眺めて過ごせるよう椅子を置いています。利用者同士が関係良く過ごせるようテーブルやベンチ、ソファの配置に配慮し、テーブルにクロスを掛け家庭的な雰囲気となるよう工夫をしています。利用者に聞いて空調管理を行い居心地よい環境となるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭には野菜や花畑があり、枇杷やイチジクも食べられるようになっている。ベンチを置いて日向ぼっこが出来たり、リビングから庭への出入りが出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、また仏壇や信仰している対象物を居室に置いて、安心できるような空間を作れるように工夫している。居室には洗面台とクローゼットが設置されている。	貴重品以外の大切にしている物の持ち込みの説明をし、利用者はテレビや使いなれた椅子、筆筒や大切な仏壇、位牌等を持参しています。家族と相談し、利用者が安全で居心地よく過ごせるよう配置しています。また便箋や本、ドライフラワーの作品等を持ち込み、自宅での趣味を活かした生活を楽しんだり、仏壇にお水を供える習慣を継続されるなど安心して過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全部バリアフリーになっていて、自由に動ける様になっている。自立支援を目標に「できること」「できない事」を把握しつつ見守っているが、徐々に認知度も進み、全介助も多くなってきている。		